

「未来に向かい主体的に学び続ける生徒の育成」

～「聴き合う関係」を大切にしながら共に学び合う授業づくりとキャリア教育の充実を通して～

1. 主題設定の理由

本校では6年前より「一人ひとりの学びを保障する授業づくり」に取り組み始めた。「学び続ける子は崩れない」という理念のもと、「聴き合う関係」「ジャンプのある学び」「教科の本質に即した学び」を追求している。。この字型座席配置や小グループによる活動を取り入れ、子ども同士の関わり合いを活かしながら、「共に学び合う」授業づくりを進めてきた。「認め合い、支え合い、高め合う」子どもを育てながら、教師一人ひとりが、専門性を活かした授業研究や、互いに関き合い学び合う授業公開・研究協議を積み重ねることにより、教職員の専門性・同僚性を高めることで、「認め合い、支え合い、高め合う」教職員集団づくりを進めている。

これまでの取り組みを通して、いくつかの課題が明らかになった。

課題の1つ目は、自分から進んで発言し、発表できる生徒が少なく、主体的に学びに向かう姿勢が弱い点である。授業の課題でもあるが、学校全体でキャリア教育の総合的・系統的な推進がさらに必要と考える。

2つ目の課題として、家庭学習が不十分で、基礎学力定着の不足する生徒が少なくない。家庭や地域と連携した家庭学習の習慣化が必要である。

また、不登校生徒数の増加も大きな課題で、関係機関と連携を進めながら、取組を進めているが、授業の中でも、まだまだ関わりづらい子ども、関係を上手く築くことができない子どもが見られる。「わからない」と言える安心感を持つことができない子どもも見られる。「関わり合いから始まる授業」づくりを積み重ね、子ども同士のつながりをつくり、子どもと教師のより良い関係を築き、どの子どもも教室に「居場所」を見つけれられるようにしたい。そのためにも、教師は「聴く・つなぐ・もどす・ケアする」という役割を自覚して日々の授業に臨みたい。このことが、学びを諦めず、自分を大切に、他者を受け入れ寄り添うことができる子どもを育てていくことにつながるはずである。

さらに、近年の課題として、この字型・グループ活動が形骸化し、形だけの話し合いになっていることも多くなっている。そのため子ども同士の私語や雑談が増え、落ち着いて学びに臨めない環境を作ってしまったという面もあった。再度、子どもの主体的な学びという原点に立ち返り、全教職員一体となり深い学びとなるよう取り組みを進めていきたい。

「関わり合い」「聴き合う関係」を大切にしながら日々の授業づくりを土台として、キャリア教育の充実・推進を通じて、子どもたちが夢を持ち、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、未来に向かって主体的に「共に学び合う授業」の創造を通して、子ども・保護者・地域の方々・教職員をはじめ学校に関わるすべての人が、「来てよかった。明日も来たい」と思う学校を実現することを目標とし、本主題を設定する。

2. 研究仮説

「学び続ける子は崩れない」という理念のもと、子どもたちのキャリア形成を支援し、一人ひとりの子どもの「主体的な学び」を保障するために、子どもたちの「関わり合い」から始まる授業を日々積み重ねていけば、「認め合い、支え合い、高め合う」子どもが育ち、「共に学ぶ」授業が創造され、未来に向かって前向きに学び続ける子どもが育成されるだろう。

また、授業の創造を通して、認め合い、支え合い、高め合う教職員の「同僚性」が高められるであろう。

学校・保護者・地域が理念を共有し、「学び」を中心とした学校づくりに取り組んでいけば、学校に関わるすべての人にとって「来てよかった。明日も来たいと思う学校」が実現できるであろう。

3. 研究内容

目指す「子ども像」=『夢を持ち、仲間とともに、学び合い、高め合う生徒』

目指す仲間集団 = ①教室の中で『誰も一人にしない』

②教室の子どもを『誰も見捨てない』

③教室の子どもの『誰の学ぶ機会も奪わない』

◆取り組みの柱

(1) 子どもの「関わり合い」「聴き合う関係」を授業で作らしましょう。

- ①日々の授業から「聴く」こと「関わる」ことを大切にする。(主体的に)
- ②聴き合う集団をつくるためにコの字、グループ、ペアを活用しましょう。(対話的に)
- ③1人では解けない課題(ジャンプ課題)を考えていきましょう。(深い学びに)

(2) 子どもの姿をしっかり「観」ましょう。→子どもの姿から改善していく。

- ①子どもの様子から授業の改善をする、生徒指導にも活かす。
- ②子どもの様子を観察できる授業。
- ③生徒が抱える課題を学年「みんな」で共有し、ケアする。 → 学年授業研修の実施。

(3) 授業を公開する。(授業づくり研修)

- ①教師も全員で学んでいく場をつくる。 → 全体授業研修の実施。
- ②自分たちでは見えない生徒の様子を他から見てもらう機会。 → 公開授業研究会
- ③年間1人1回、必ず公開する。

(4) 教職員同士で聴き合きましょう。

- ①教科部会の実施。(各教科での専門性を高めていく。)
- ②わからないことは、職員室の中で積極的に聴いていきましょう。
- ③「manabi no tane」に授業の題材を共有していく。

(5) キャリアの視点で子どもを育てましょう。

- ①キャリアシートを活用し、家庭・地域と連携し子どもを育てましょう。
- ②夢を持って主体的に学ぶ授業づくりを進めます。

4. 取り組みの概要

【授業づくり】

○「共に学び合う」授業づくりの推進

- (1) 全教員、年間1回以上の公開研究授業の実施
- (2) 授業改善につながる研究協議会の実施
- (3) 指導主事・外部指導師等を活用した授業改善
- (4) 教科部会で行う授業案検討会の実施
- (5) 全国学力・学習状況調査の分析と活用
- (6) 他校の公開授業研究会へ原則1人1回の参加

○少人数集団による学習、多様な指導形態の工夫

○授業づくりを通じた「同僚性」の構築

○鳴門教育大学との連携に基づく「鈴鹿型授業力向上モデル」の研究開発

【キャリア教育の推進】

○拡大研修委員会を中心としたカリキュラムの作成

○キャリアシート（ワークシート）の作成と活用

○キャリアの視点に立った授業づくり

【各種教育の推進】

○総合的な学習の系統的な実施（3年間を見通した、鼓中の特色を生かした取り組み）

○人権 ○道徳 ○他文化共生 ○環境 ○食育 ○安全 ○情報 ○読書

【補充学習の充実・家庭学習の定着】

○夏季休業中のサポートデー開設・学習ボランティアの活用（CS）

○テスト期間中の放課後学習

○課題や点検・評価の工夫（取り組みやすい課題，生徒への働きかけ，など）

○家庭・地域と連携した家庭学習への定着・充実。

【シラバスの作成・活用】

○各教科の年間指導計画作成

○評価規準・基準の精度向上推進（教務）

平成30年度の研修年間計画

◎基本的には「1人1回授業公開」を原則としたいと思います。

◎1年生6人 2年生8人 3年生9人

※学年授業研修は 普段の授業での些細な悩みや意見などを話していく場。
 授業の中で学年としてどう生徒たちを育てていくかを共有する場。
 授業の中での生徒たちの様子を共有する場。

※全体授業研修は 生徒の様子から授業改善を図る。
 授業での生徒の様子を観る力や教科力を養う。

※公開授業研究会は 普段の取り組みの成果を確認。助言から授業改善を図る。
 生徒の様子から授業改善、生徒の様子を観る。

月	内容	形式	助言者	授業者			
4	4(水)研修方針提案	講義					
	18(水)全体授業研修①	授業公開	笹屋先生	2年 ()	2年 ()	3年 ()	3年 ()
5	22(火)学年授業研修①	授業公開	笹屋先生	1年 ()	2年 ()	3年 ()	
6	19(火)第1回公開授業研究会	授業公開	金丸勝実先生	2年 ()			
8	3(金)校区人権・生指交流会						
	3(金)校内研修 (人権・道徳分野の研修を予定)	未定					
	22(月)校内研修	未定					
9	11(火)第2回公開授業研究会	授業公開	倉知雪春先生 金丸勝実先生	3年 ()			
10	17(水)全体授業研修②	授業公開	未定	3年 5クラス	()	()	()
11	8(木)第3回公開授業研究会	授業公開	金丸勝実先生	1年 ()			
1	29(火)学年授業研修②	授業公開	未定	1年 ()	1年 ()	2年 ()	2年 ()
2	13(水)全体授業研修③	授業公開	未定	1年 ()	1年 ()	2年 ()	2年 ()
	20(水)成果・課題の検証	検証					

☆助言者

- 倉知雪春先生(愛知文教大学)…学びの共同体の基本的な理念の部分で助言を頂く。
- 金丸勝実先生(学びの共同体スーパーバイザー)…年間を通して関わっていただき、具体的な助言を頂く。
- 笹屋孝允先生(三重大学教職大学院 特任講師)…主体的・対話的な学びに向けて、学習規律、協同学習、学級経営の視点等から助言を頂く。また小中連携の推進に関わって頂く。
- 鳴門教育大学連携の方